

あなたは隣人？

2月25日は愛隣幼稚園の創立記念日、52回目の誕生日です。創立五十周年を記念して発刊した「園長かいじゅうからの子育てメッセージ」も、おかげさまで好評のお声を頂戴しています。皆様のご協力も感謝です。

2月の園便りでは毎年幼稚園の創立やその精神に関わることを取り上げています。「愛隣」の由来は、聖書が教える「隣人を愛する」です。実は先日障害のある子を受け入れる保育のあり方についての研修会がありました。障害のある子を受け入れる幼稚園が増えてくる一方で、保育の上では戸惑いもたくさん生じています。この会で私は「隣人になる」という話をしました。折角考えて話したことなので、創立記念日にちなんでおすそ分けをさせていただきます。

「永遠の命を得る方法」を質問されたイエスが、「隣人を愛する」を挙げました。すると「隣人を愛するってどうすることか」と再質問があり、イエスはこんな例話をしました。

旅人が強盗に襲われ、道端に転がっていた。通りかかった祭司などは見ぬふりで通り過ぎたが、敵対国のサマリア人は近寄り、薬を塗り、ロバに乗せ、自分が泊まる宿に連れて行き、一晩介抱した。翌日「金は後で払うから必要な介抱をするように」と言い残して宿を離れた。

イエスはこの話をしてから質問者に「隣人になったのは誰か？」と問いかけました。質問者が「サマリア人です」と答えると、イエスは「貴方も行って同じようにしなさい」と言ったのです。これが聖書に書いてある「隣人愛」の実例です。

研修会で私は「保育者の第一の役割は『隣人になることだ』」と話しました。サマリア人がしたことは以下のことでした。歩みを止めて助けを求める人のそばに行く。持ち合わせの薬を塗る。乗っていたロバの背を提供し、自分は歩く。意識のない相手を一晩介抱する。

自腹を切る。これが「隣人になる」ことの具体的内容です。丁寧に言うと、この～は次のような意味があると考えます。

は「自分の計画、予定、都合などを曲げて、相手のためにそばにいてあげる」こと。

は「パーフェクトでなくても、できる方法で相手のために可能なことをする」こと。

は「自分の長所、好ましいもの、有利なものを相手のために提供する」こと。

は「相手からの嬉しい反応や努力の成果がなくても、相手のために最善を尽くす」こと。

は「思うように行かなかったり自分に損になることを、相手のために引き受ける」こと。

～の文中にある「相手」を「ちゃん、さん」と読み替えて読んでみてください。

研修会の話としては、保育者は「相手」を具体的な子どもの名前に読み替えます。お母さん、「相手」をわが子の名前に読み替えてみてください。ご主人の名前に読み替えてみてください。（夫は妻の名前に読み替えます。）そのようにすることが、その人の隣人になるということだとイエスは説明したのです。

こうしてみると、隣人になるというのは苦勞を一方的に背負い込むことのように見えます。でも隣人は「互惠」の関係です。必ず自分も良いものをもっているのです。聖書の問答も「隣人を愛する 永遠の命を得る」という互惠です。この場合は持ち出し分をはるかに超える恵をいただく結果になるのです。子どもと保育者も、親子も、夫婦も、みな同じです。互惠の隣人になるべき相手なのです。